

平成 21 年 3 月 12 日

河本卓生

米本隆夫氏の「山と人 17号」書評（JAC支部報3月号に掲載）に対するコメント

1 現役活動記録に対する米本氏の言及

18年間にわたる現役活動記録がいわば絶賛されている。文章が生き生きして、コメントもまた素晴らしいと褒められております。

私はこのような反響を、首を長くして待望しておりました。ご存じの通り、この記録は川端君が中心となり、18年間の現役活動に関わった当時の現役・若手OBが協力して纏め上げたものであります。そのエネルギーと苦労は膨大であったはず。しかも、単なる時間記録の集積ではなくて、読み応えのある読み物に仕上がっていることを、私は編集しながら内々感心しておりました。出色の山行記であると唸っておりました。

川端君は、原稿の注文・催促・手直しなど恐らくその作業は困難を極めたと推測いたします。会社から帰宅後の深夜に及ぶ作業、土・日を通してのパソコンなど多忙を通り越したはずですが、しかし、川端君・若手OBは見事にこれをやり遂げました。私は送られてくるその原稿に目を通しながら、その内容の面白さに、思わず眼を輝かしておりました。

これは実に面白い。と。「山と人 17号」の中で特筆すべき読み物になるとの予感がしておりました。

大学山岳部が弱体化していく時代の趨勢の中で、我が山岳部がこのようなエネルギーに満ち溢れた活動記録を残すことに、一人密かに感動しておりました。私は総会などで事あるごとに、現役活動記録の素晴らしさを言及したはずですが、今回図らずも外部から称賛の声が上がったことは、何よりも川端君などの労苦に対する高い評価であり、これを素直に喜ぶたいと思います。

出版後この部分へのいろいろな意見や異論を耳にしましたが、今となれば、18年間の現役記録を一挙に掲載したことは間違いではなかったと、意を強くしております。

2 評者としての米本氏の姿勢について

評者の姿勢としては当然と言えば、当然とも形容できますが、米本氏が実に隅々まで「山と人 17号」を読まれおられることに驚きました。更に、「山と人 80年」にも目を通し、過去のポリピア遠征にまで言及しておられます。なお、ACKUのいわば内部問題であるポリピア誌上討論を、30年後に部外に公表したことに対して一定の評価を与えておられます。

また、バイオニアワークを旗印の下、カンリガルボ山群への取り組みに共鳴し、その活

動を評価しております。

このことは山岳会・山岳部の活動を積極的に外部に知らしめて行くとの、井上会長の主義・主張が決して間違っていないことを示唆しているともいえます。今後とも我々の活動実績を幅広く外部公表することは肝要なことと思考いたします。

3 誤植の指摘について

これはもっぱら河本の責任であり、皆さんに深くお詫び申し上げたい。この指摘は次回に生かしたいと考えております。

以上